

HITACHI

Reliable Solutions

2025年3月期第1四半期 決算説明会

2024年7月26日

 **日立建機株式会社**

執行役常務兼CFO 塩嶋 慶一郎

執行役常務兼CMO 松井 英彦

LANDCROS Japanese Excellence—Reliable Solutions

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役常務兼CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明します。

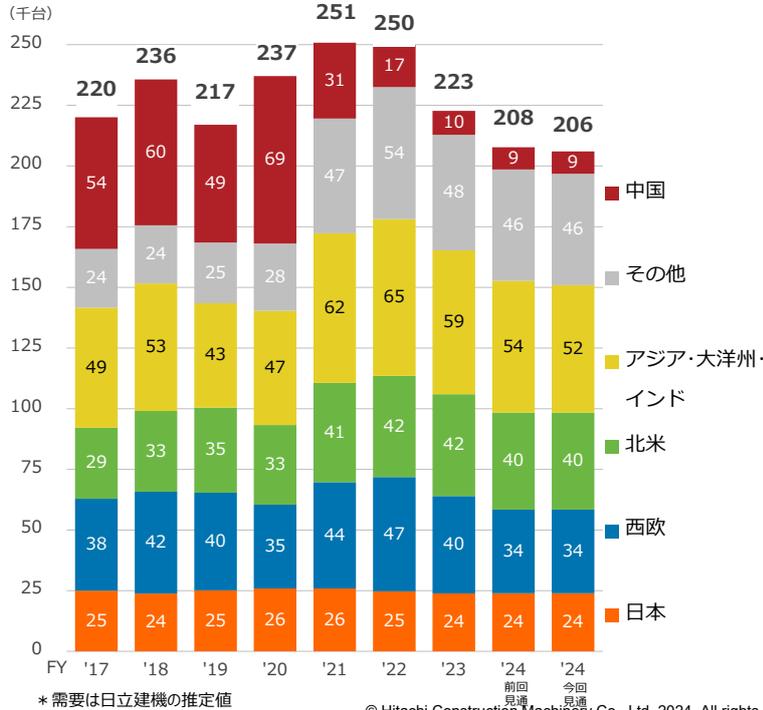
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable Solutions

新興国比率：24年度 52%（前年比±0%）

※新興国：中国、アジア・大洋州・インド、その他



地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'23	'24
合計	-11%	-7%
中国	-43%	-6%
ロシア・CIS・東欧	-16%	-4%
アフリカ	+13%	-15%
中東	+10%	-13%
中南米	-33%	+14%
その他	-12%	-4%
アジア	-17%	-8%
インド	+8%	-16%
オセアニア	-18%	-10%
アジア・大洋州・インド	-8%	-12%
北米	+1%	-5%
西欧	-15%	-14%
日本	-3%	±0%

*需要は日立建機の推定値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

3

3ページ目で、油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

23年度の需要は、前回4月の需要見通しから増加し、前年比11%減の22万3千台となりました。

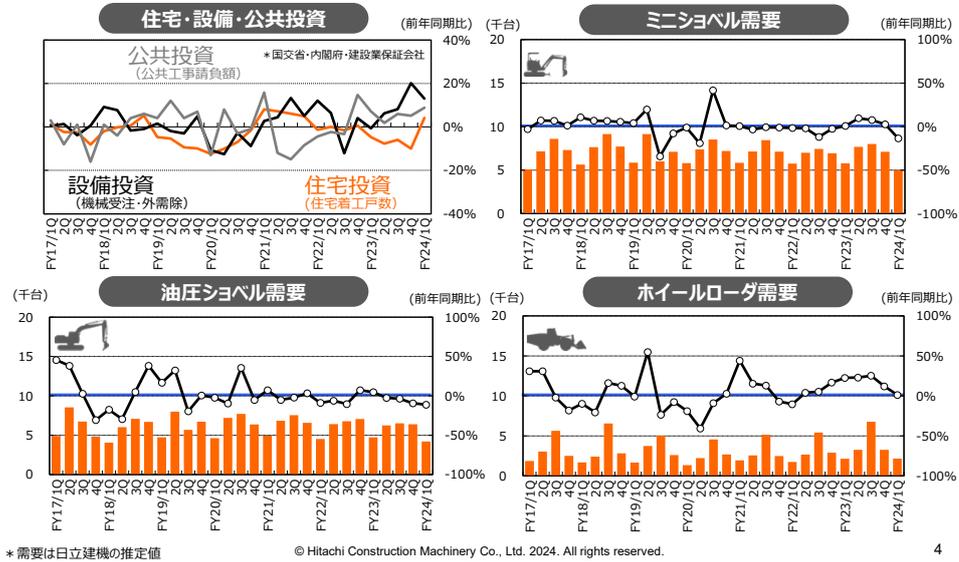
24年度の需要は、前回4月の見通しから、オーストラリア・ニュージーランド・インドネシアを中心に需要が減少し、アジア・大洋州全体で約2千台の需要減となります。

23年度に対し、日本は横ばい、西欧で引き続き減少、北米や新興国でも全体的に減少し、

全世界合計では、前年比7%減の20万6千台となります。

次に、地域別に第1四半期の結果についてご説明申し上げます。

- 住宅投資、公共投資、設備投資共に増加。
- 油圧需要は減少：前年同期比 油圧 Δ 11%、ミニ Δ 13%、WL +1%



次は4ページ目。日本市場です。

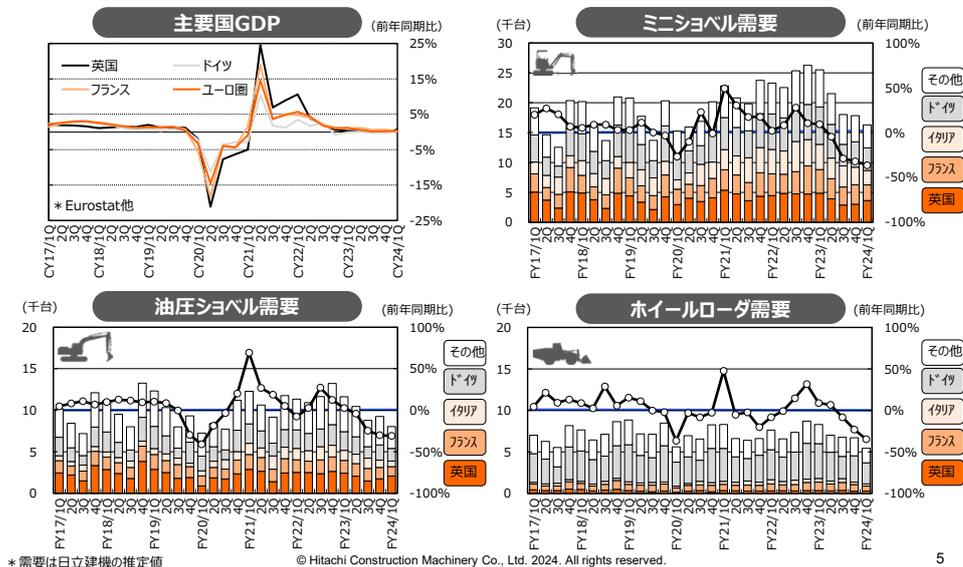
左上、第1四半期の公共投資、設備投資は引き続き増加、住宅投資についても増加に転じております。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で11%減となりますが、市況は底堅く推移しております。

右上、ミニショベルは13%減。

右下、ホイールローダーは1%増となります。

- 24年1QのGDPは引き続き低成長
- 油圧需要は大幅減：前年同期比 油圧 Δ 31%、ミニ Δ 36%、WL Δ 35%



次は5ページ目。欧州市場です。

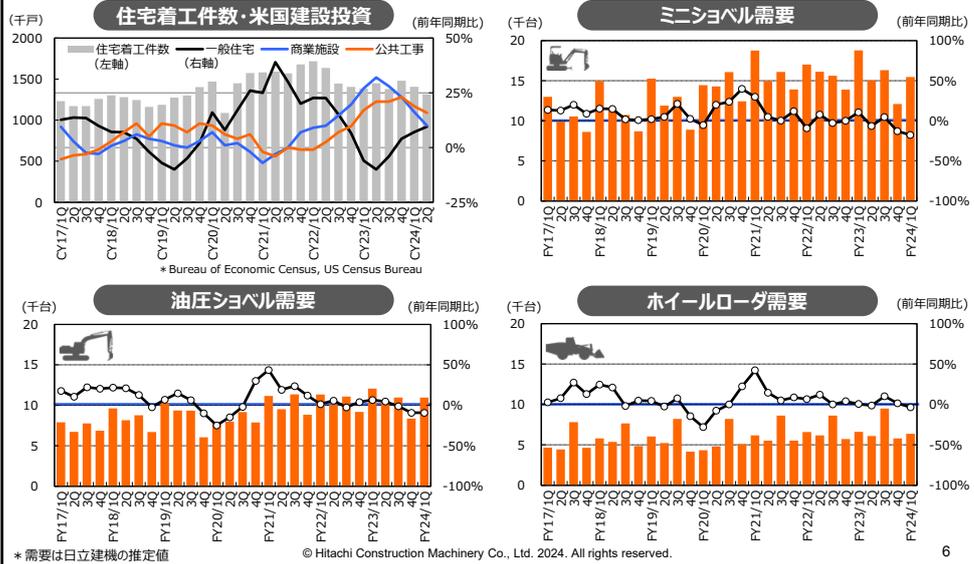
左上、主要国GDPはインフレ継続と金利高止まりの影響もあり、ユーロ圏全体で低成長が続いております。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は、継続する市場停滞により前年同期比で31%の大幅減となります。

右上、ミニショベルは36%減。

右下、ホイールローダーについてもドイツを中心に大幅減となり、前年同期比35%減となります。

- 一般住宅、商業施設は増加、住宅着工件数は減少。公共工事は大幅増。
- 油圧需要は減少：前年同期比 油圧 △9%、ミニ △18%、WL △4%



次は6ページ目。北米市場です。

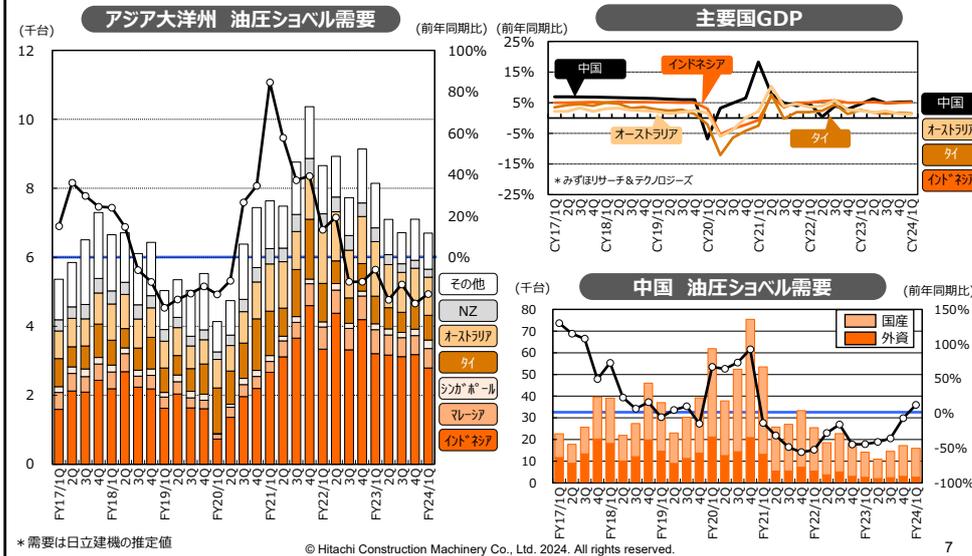
左上、住宅着工件数は、前期から減少しましたが、一般住宅投資、商業施設投資は前年同期比で依然として増加しております。公共工事も同様に大幅増が継続しております。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で9%減となりますが依然として高水準が続いております。

右上、ミニショベルは前年同期比で18%減となります。

右下、ホイールローダーについては4%減となります。

- アジア大洋州の油圧需要は前年同期比 △18%
- 中国の油圧需要は前年同期比 +12%(国産+14%,外資+4%)



次は7ページ目。アジア大洋州、中国市場です。

右上、主要国のGDPについては、各国ともにプラス成長を維持しているものの、オーストラリア・タイは低成長。中国も、景気の回復は力強さを欠く状況となっています。

左側、アジア大洋州の第1四半期の油圧ショベル需要は、鉱山・土木セグメントを中心としたインドネシアでの需要減、建設コスト増を背景としたオーストラリアでの需要減もあり前年同期比で18%減となります。

右下、中国の油圧ショベル需要については、国産機を含めた全需要で前年同期比12%増に転じました。

内訳として国産機需要は14%増、外資は4%増となります。

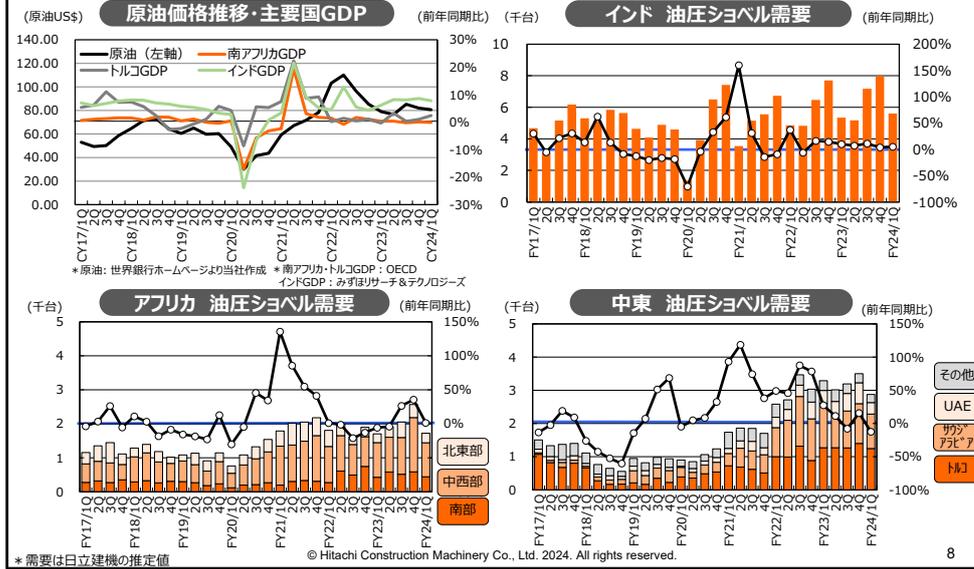
インド・中東・アフリカ市場

第1四半期(24年4~6月)

HITACHI

Reliable Solutions

- インドの油圧需要は前年同期比+5%
- アフリカの油圧需要は前年同期比 +1%
- 中東の油圧需要は前年同期比△13%



次は8ページ目。インド・中東・アフリカ市場です。

左上、原油価格は前期から1ドル下落し、81ドルとなりました。主要国GDPについては、インドは増加、トルコは微増、南アフリカは微減となります。

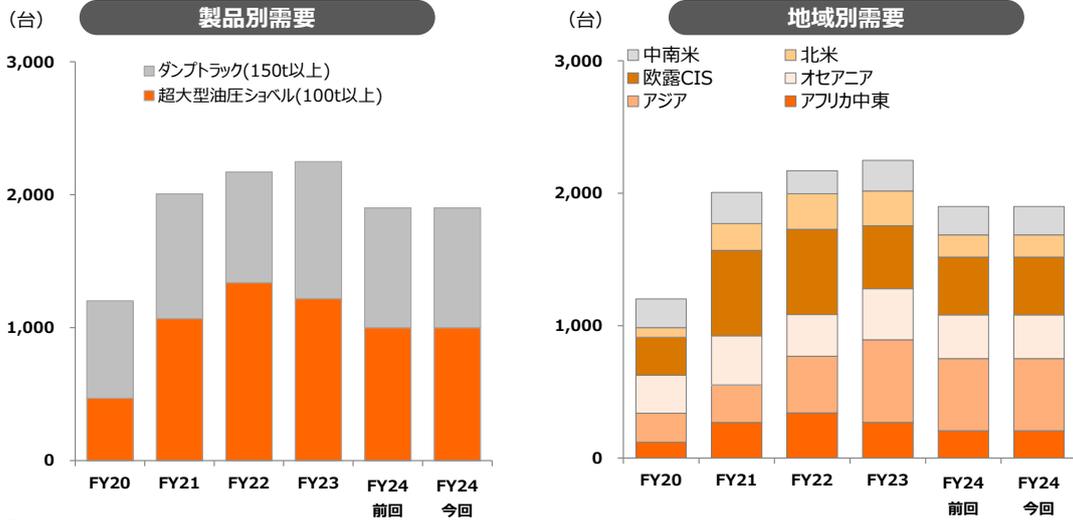
右上、インドの第1四半期の油圧ショベル需要については、前年同期比で5%増となり、増加が続いております。

左下、アフリカの油圧ショベル需要について、前期は中西部を中心にプロジェクト案件による一時的な需要増がありましたが、第1四半期については1%増となります。

右下、中東の油圧ショベル需要は、高需要となっていた前年同期と比較すると13%減となります。

- 24年度需要見通しは、前回見通しから変更なし。
- 前年比については、23年度実績が前回見通しから上振れしたため、前回の「前年比0~△10%」から「前年比△5%~△15%」へ見直す

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



次は9ページ目、マイニング機械の需要見通しです。

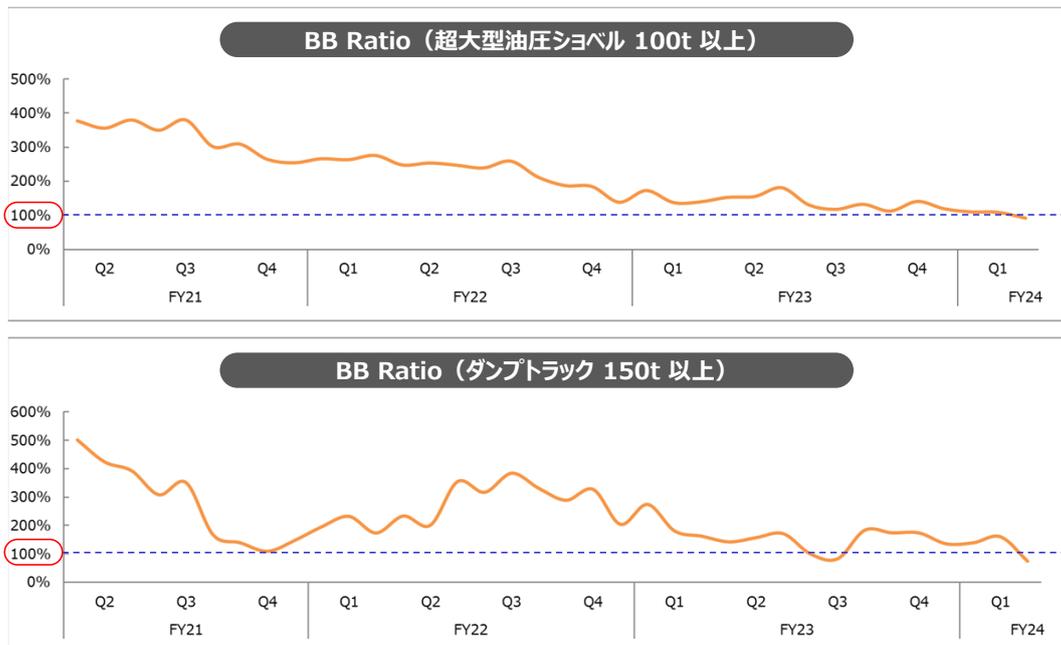
24年度のマイニング需要見通しは、前回見通しから変更ありません。

前年比については、23年度の実績が前回見通しから上振れしたため、前回の「前年比0~△10%」から「前年比△5%~△15%」へ見直します。

補足 : BB Ratio

HITACHI

Reliable Solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

10

続いて10ページ目、BBレシオです。

第1四半期はショベル、ダンプトラック共に100%を下回りました。

超大型ショベルは中国、CISで100tクラスを中心に新規受注がありましたが、300t以上クラスのショベル、ダンプトラックは、現在大手鉱山会社、資源メジャーと25年度以降の購入につき商談中であり、100%を割り込みました。

トピック(1) : ゼロ・エミッション実現に向けた取り組み

HITACHI

Reliable Solutions

世界初、鉱山現場で超大型のフル電動ダンプトラック実証試験を開始 (2024年6月)



フル電動ダンプトラック

ディーゼルエンジン式 フル電動式



20時間/日・350日の稼働

	ディーゼルエンジン式	フル電動式
ディーゼル燃料	120万リットル/年	0リットル/年
CO2排出量	3,000t/年	0t/年

EH4000AC-3を電動化した場合の比較

パートナー企業と協創する研究拠点「ZERO EMISSION EV-LAB」を開設 (2024年5月)



デモンストレーションエリア



コミュニケーションエリア

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

11

続きまして11ページからはトピックのご説明です。
まずは、ゼロ・エミッション実現に向けた取り組みです。

日立建機は、6月、鉱山会社ファースト・クオンタム社のザンビアにあるカンサンシ銅・金鉱山で、フル電動ダンプトラックの実証試験を開始しました。
建設機械メーカーが積載量200トンクラスのフル電動ダンプトラックをお客さまの鉱山現場で実証走行するのは、世界で初めての取り組みです。

当社のリジッドダンプトラックEH4000AC-3をフル電動駆動にした場合、年間約120万リットルのディーゼル燃料が不要になり、3,000トンのCO2排出量の削減につながります。

再生可能エネルギーが豊富なザンビアで真の脱炭素の実現に挑戦します。

また、5月に、パートナー企業と協創する研究拠点「ZERO EMISSION EV-LAB」を千葉県市川市に開設しました。

EV-LABは、世界でも電動化が進んでいるノルウェーの首都オスロの建設現場を再現したデモエリアと、パートナー企業と意見交換するコミュニケーションエリアを設けています。
多くのパートナー企業と連携し、ゼロ・エミッションの実現に向けて取り組んでまいります。

トピック(2) : 物流の2024年問題の解決に向けた取り組み

HITACHI

Reliable Solutions

3つの施策を通じてドライバー不足に対応した持続的な事業体制を構築



トラック予約受付サービスを国内9拠点に順次導入
(2024年6月～)



トラック予約受付サービスを操作する担当者

トラックの待機時間を
目標**30分**以内に

関東-関西間のトラック輸送に中継輸送を導入
(2024年5月～)



従来より積載量の多いウイングトレーラーを導入



静岡で荷物を交換して出発地へ

日立建機オリジナルデザインのコンテナで鉄道輸送を開始
(2024年5月～)



鉄道輸送に使用しているオリジナルコンテナ

年間**43t**のCO2を削減

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

12

次に12ページ目、物流の2024年問題の解決に向けた取り組みについて紹介します。

当社は3つの施策を通じてドライバー不足に対応した持続的な事業体制の構築を推進しています。

まず、日立建機は2024年6月からトラック予約受付サービスを国内9拠点に順次導入しています。これにより部品の納入や製品の出荷をするトラックの待機時間を30分以内にすることをめざします。

二つ目に、関東-関西間の輸送に中継輸送を導入しました。

茨城県と関西地方で貨物を積んだウイングトレーラーが静岡県で貨物を交換して出発地に戻る仕組みで、宿泊をしていたドライバーが日帰りで帰宅できるようになります。

また同時に従来より積載量の多いウイングトレーラーを導入して必要な車両台数を削減しました。

三つ目に、兵庫県のサプライヤーから茨城県地区の拠点への部品の輸送を鉄道輸送に切り替えました。これにより年間約43tのCO2排出量削減を見込みます。

コンテナはコーポレートカラー「Reliable Orange」を塗装したオリジナル仕様のものを製作しました。前面と背面に油圧ショベルのイラストをあしらっています。

トピック(3) : ニューコンセプト「LANDCROS」を制定

HITACHI

Reliable Solutions

真のソリューションプロバイダーとして革新的なソリューションを提供したい想いの証

LANDCROS

大地

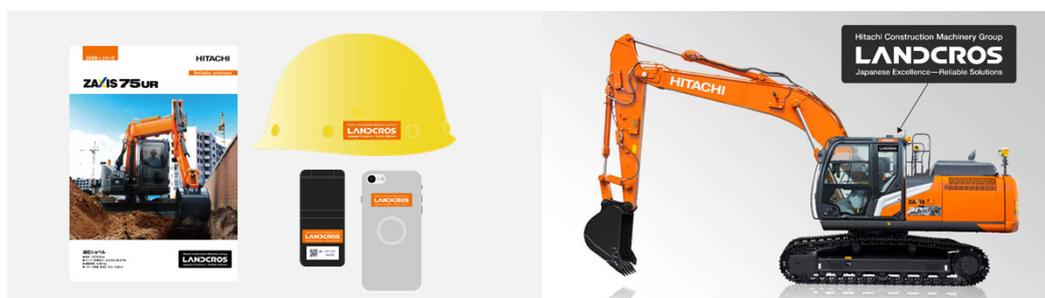
VISION

豊かな大地、豊かな街を未来へ
安全で持続可能な社会の実現に貢献します

Customer Reliable Open Solutions

お客様に信頼されるオープンなソリューション

Solution Provider



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

13

最後はニューコンセプトについてご説明します。

日立建機は、7月、お客様、代理店、取引先、パートナーをはじめあらゆるステークホルダーに「革新的ソリューションを提供したい日立建機グループの想い」の証として、ニューコンセプト「LANDCROS」を制定しました。

「LANDCROS」は、従業員のアンケートで集められた次の5つの「想い」をこめています。

- 1.「お客様（Customer）の旅に同行し、伴走したい」、
- 2.「お客様にとってReliableな存在でありたい」、
- 3.「お客様やパートナーとOpenに新たな事業・価値を協創し、共に発展したい」、
- 4.「お客様やさまざまなステークホルダーに革新的なSolutionsを提案したい」、
- 5.日立建機のグループアイデンティティでビジョンとして定められている「豊かな大地、豊かな街の実現に貢献したい」を象徴する「LAND」

今後は日立建機グループ全体で制定したニューコンセプトを名刺や建設機械に貼り、広く「LANDCROS」の普及・促進に取り組んでいきます。

2. 2025年3月期 第1四半期 決算説明

執行役常務兼CFO

塩嶋 慶一郎

続いて、CFOの塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

私から、24年度第1四半期の決算、並びに同年度通年業績予想の概要をご説明致します。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable Solutions

当第1四半期は、米州事業拡大や為替円安効果も加わり、売上収益は前年同期比4%増収も、欧州、アジアの物量減もあり調整後営業利益は13%減益、親会社株主に帰属する四半期利益も22%減益。

(単位：億円)

	24年度 1Q	23年度 1Q	前年同期比 増減率
継続事業			
売上収益	3,282	3,159	4%
調整後営業利益 *1	(9.9%) 325	(11.9%) 376	△13%
営業利益	(10.0%) 328	(12.1%) 381	△14%
税引前四半期利益	(11.9%) 391	(13.8%) 436	△10%
継続事業からの四半期利益	(7.9%) 260	(10.6%) 335	△22%
非継続事業からの四半期利益	7	1	827%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(7.5%) 246	(9.9%) 314	△22%
EBIT *2	(12.9%) 424	(14.6%) 461	△8%
為替			
アメリカドル	155.9	137.4	18.5
ユーロ	167.9	149.5	18.4
中国元	21.5	19.6	1.9
オーストラリアドル	102.7	91.8	11.0

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)
© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved. 15

先ず、P.15『連結決算の概要』をご覧ください。

24年度第1四半期の売上収益は、米州事業拡大や為替円安の持上げ効果もあり、前年比4%増の3,282億円となりました。

調整後営業利益は、13%減の325億円で 利益率9.9%、
営業利益は328億円で、利益率は10.0%でありました。

親会社株主帰属の当期利益は、前年比22%減の246億円となりました。

欧州、アジアを中心とした需要減の厳しい環境下、米州、マイニング、並びにバリューチェーン事業の伸長が牽引し、第1四半期の売上収益としては過去最高を更新した一方、販売物量減により、調整後営業利益以下は前年比減益となりました。

尚、第1四半期累計期間の為替レートは、前年比で米ドルが18.5円の円安、ユーロが18.4円、中国元が1.9円、オーストラリアドルも11.0円の円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable Solutions

欧州、アジアで市況減速あるも、米州、オセアニア等で伸長。

(単位：億円)

	24年度 1Q		23年度 1Q		前年同期比		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
日本	426	13%	442	14%	△ 16	△4%	
アジア	237	7%	278	9%	△ 41	△15%	
インド	190	6%	161	5%	30	18%	
オセアニア	688	21%	610	19%	78	13%	
欧州	384	12%	441	14%	△ 56	△13%	
米州	北米	815	25%	777	25%	38	5%
	中南米	130	4%	90	3%	40	45%
内：独自展開	945	29%	867	27%	78	9%	
	(534)	(16%)	(519)	(16%)	(14)	(3%)	
ロシアCIS	46	1%	82	3%	△ 37	△44%	
中東	113	3%	75	2%	38	51%	
アフリカ	182	6%	117	4%	64	55%	
中国	71	2%	85	3%	△ 14	△16%	
合計	3,282	100%	3,159	100%	124	4%	
海外売上収益比率	87%		86%				

* 23年度及び24年度の実績について継続事業のみの値としています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

16

次に、P.16『連結 地域別売上収益』をご覧ください。

当四半期の売上収益は前年比124億円の増収となりました。

尚、為替円安の影響を287億円の増収と分析しております。

地域別では、主に欧州、アジア、ロシア・CIS にて前年比減益となった一方、独自展開を拡大する米州を初め、堅調なマイニング需要の取り込みにより、オセアニア、アフリカも増収となりました。

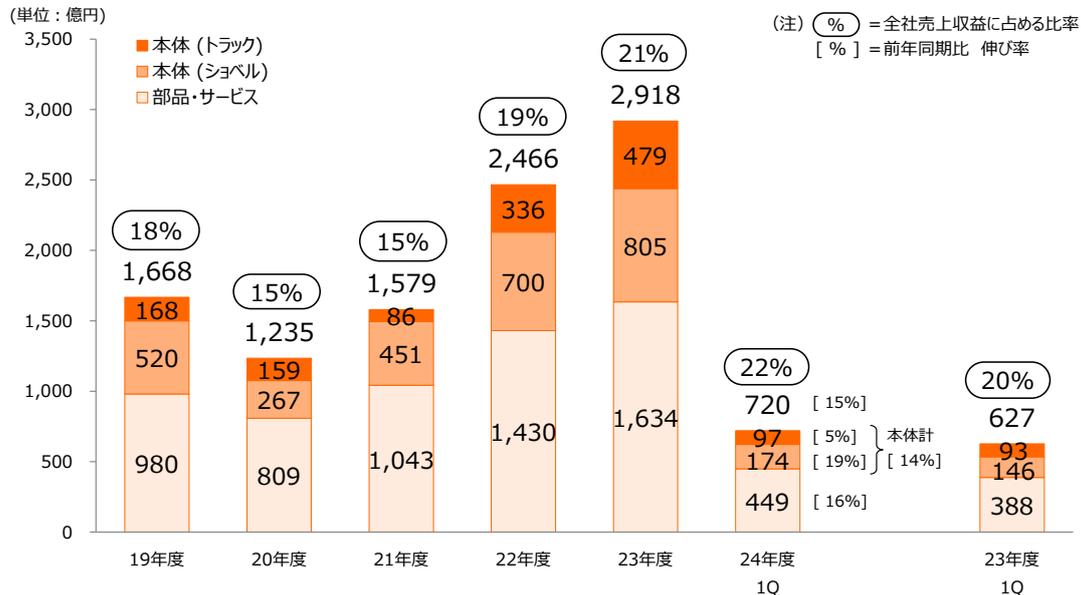
結果、海外売上収益比率は前年比1ポイント増の87%と第1四半期として過去最高となりました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

トラック、ショベル、部品・サービス全てで増収。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

17

続いて、P.17『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当四半期のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通り720億円と、前年比15%の増収でした。

本体売上においては、トラックが アフリカ、中南米の貢献で前年比5%の増収に、ショベルもオセアニア、中南米、アフリカの貢献で19%の増収となりました。

また、部品サービスも オセアニア、中南米の貢献にて、16%の増収となりました。

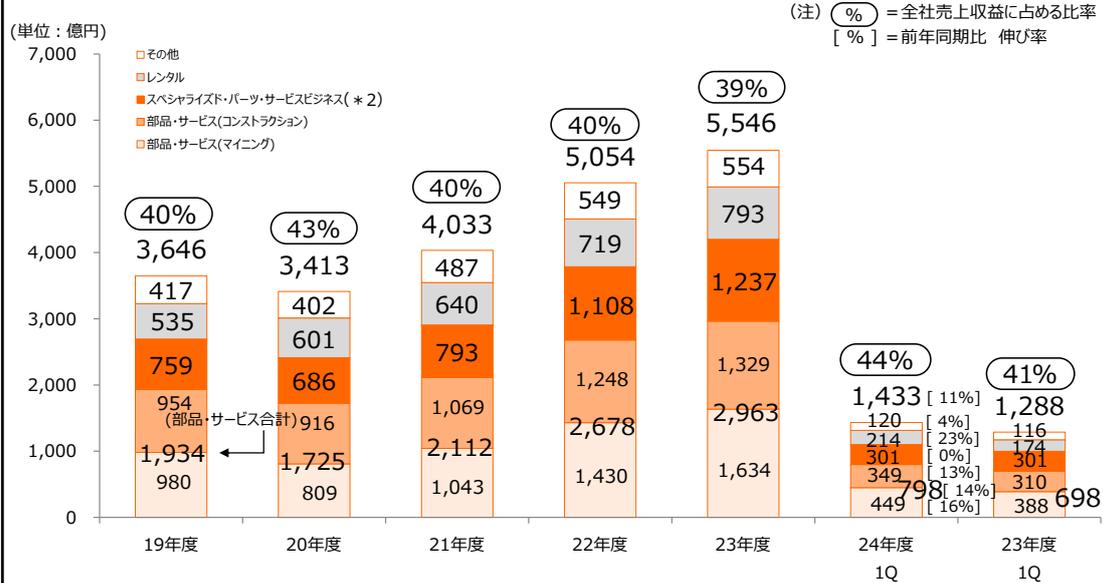
尚、連結売上収益に占めるマイニング売上比率も22%と、前年比で2ポイント増加しました。

バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

部品サービスが大きく増収した他、全てのセグメントで増収。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計
*2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供
19年度実績より継続事業のみの値として、遡及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

18

続いて、P.18は『バリューチェーン』の状況です。

同じく、右から二番目の棒グラフをご覧ください。

当四半期のバリューチェーン売上収益は 前年比11%増の1,433億円でした。

部品サービス収益が前年比14%の増収となった他、レンタル事業も23%の増収を確保したことで、第1四半期として過去最高収益を記録しました。

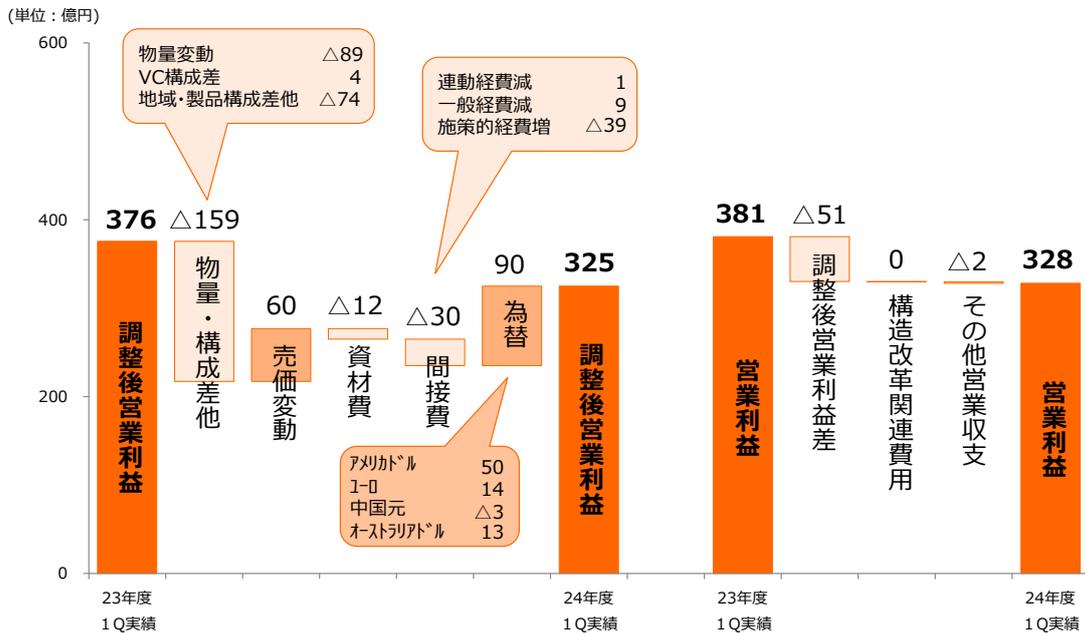
連結売上収益に占めるバリューチェーンの比率も44%と、前年比で3ポイント増加しました。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable Solutions

資材費、間接費増を売価改善で吸収するも、物量・構成差他の要因が大きく、調整後営業利益は減益。



続いてP.19は当四半期の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比51億円の減益となった要因となります。

左端から、物量・構成差として159億の減益要因と分析しております。

内訳として、物量減で89億、バリューチェーン売上の増加による構成差で4億の増益となった他、棚卸資産未実現利益調整による利益繰延を主要因とする地域・製品構成差他74億の減益要因が大きかったです。

一方で、売価変動60億の改善により、資材費増12億、並びに人件費、研究開発費等の施策的経費増を主とする間接費増30億を吸収しました。

為替円安影響90億円の持上げ効果を受取るも、調整後営業利益は、325億円となりました。

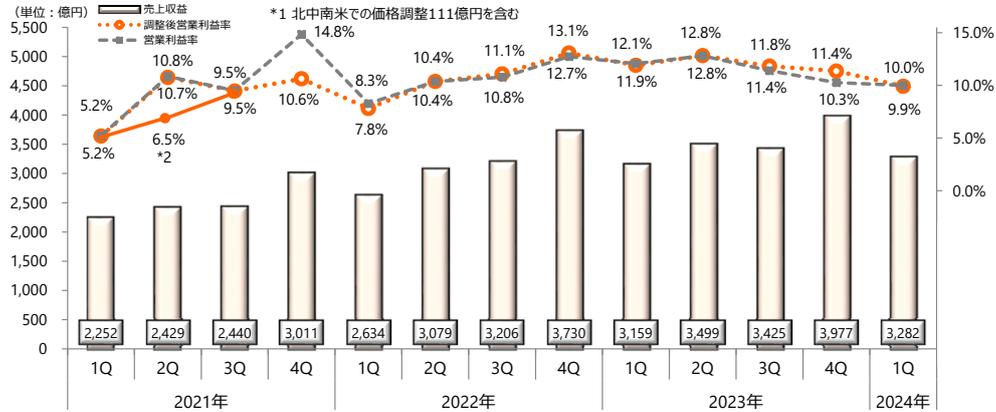
ページ右側、営業利益も調整後営業利益の減益により、前年比53億の減益となる、328億円となりました。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable Solutions
(単位:億円)

	2021年				2022年				2023年				2024年
	1Q	2Q*1	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上収益	2,252	2,429	2,440	3,011	2,634	3,079	3,206	3,730	3,159	3,499	3,425	3,977	3,282
調整後営業利益	117	261	231	320	206	319	355	487	376	449	405	451	325
営業利益	117	263	232	447	218	319	345	475	381	448	390	408	328



四半期別 為替レート	2021年				2022年				2023年				2024年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
アメリカドル	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6	138.4	141.6	132.3	137.4	144.6	147.9	148.6	155.9
ユーロ	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1	139.3	144.3	142.1	149.5	157.3	159.1	161.3	167.9
中国元	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6	20.2	19.9	19.3	19.6	19.9	20.4	20.6	21.5
オーストラリアドル	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6	94.5	92.9	90.6	91.8	94.7	96.3	97.7	102.7

21年度実績より継続事業のみの値として、適及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

20

続いて、P.20は四半期別の業績推移です。

一番右側の24年度第1四半期をご覧ください。

当四半期の売上収益3,282億円は、第1四半期として過去最高収益となりました。

一方、調整後営業利益率は、棚卸資産未実現利益調整による利益繰延が大きく、折れ線グラフに示した通りに、9.9%となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable Solutions

棚卸資産は為替円安影響もあり増加するも、営業債権は縮減。

(単位：億円)

	(A) 24年1Q	(B) 23年度末	(C) 23年1Q	(A)-(B) 増減		(D) 24年1Q	(E) 23年度末	(F) 23年1Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	1,562	1,435	1,079	127	営業債務及びその他債務合計	2,653	2,894	2,649	△241
営業債権	2,768	3,057	2,995	△289	社債及び借入金	6,192	5,756	5,648	436
棚卸資産	6,010	5,523	5,251	487	負債の部合計	10,424	10,206	9,855	218
流動資産合計	11,202	10,776	9,816	427	(親会社所有者帰属持分比率)	(42.3%)	(41.6%)	(40.6%)	(0.7%)
非流動資産合計	7,843	7,575	7,537	268	資本の部合計	8,621	8,144	7,497	477
資産の部合計	19,045	18,350	17,353	695	負債・資本の部合計	19,045	18,350	17,353	695
非流動を含めた営業債権	3,239	3,529	3,417	△291					
棚卸資産 内訳					有利子負債計	(32.5%) 6,192	(31.4%) 5,756	(32.5%) 5,648	(1.1%) 436
本体	2,628	2,297	1,798	332	現金及び現金同等物	1,562	1,435	1,079	127
部品	1,801	1,728	1,700	73	ネット有利子	(24.3%) 4,630	(23.5%) 4,321	(26.3%) 4,569	(0.8%) 309
その他	1,582	1,499	1,754	83	負債				
棚卸資産計	6,010	5,523	5,251	487	ネットD/Eレシオ	0.57	0.57	0.65	0.00
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)					
営業債権 (非流動含む)	83	92	94	△8					
棚卸資産	155	143	144	11					
営業債務	42	44	44	△3					
正味運転資金	193	187	189	6					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

21

続いて、P.21は24年6月末の連結貸借対照表です。

前年度末24年3月末比較では、営業債権を289億円縮減した一方、棚卸資産は米州並びにマイニング向け売上物量増への対応により、新車在庫を主体に487億円の増加となりました。

尚、為替円安影響による増加相当を夫々、136億、及び292億と分析しております。

また、非流動資産においても業容拡大のための建物、機械設備、及びレンタル資産への投資に為替換算影響も加わり、268億増加したことから、総資産は19,045億円と、前年度末より695億増加となりました。同じく、為替円安影響を812億の増加要因と分析し、実質的には縮減となりました。

手持日数では、営業債権を83日と前年度末より8日短縮したものの、棚卸資産は11日延伸の155日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも6日延伸した193日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より436億増加、ネット有利子負債も309億増加の4,630億円となりました。

資本合計は8,621億円で、親会社所有者帰属持分比率は42.3%、ネットD/Eレシオは0.57と前年度末と同レベルで推移しました。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable Solutions

営業キャッシュ・フローはポジティブ、フリーキャッシュ・フローはネガティブなるも前年同期より改善。

(単位：億円)

	24年度 1Q		23年度 1Q		前年同期比 増減額	
四半期利益（非継続事業含む）		267		336		△ 69
減価償却費	450	183	501	166	△ 51	18
売掛金及び受取手形の増減		433		186		247
棚卸資産の増減	127	△ 177	△ 349	△ 463	475	286
買掛金及び支払手形の増減		△ 129		△ 72		△ 57
その他		△ 494		△ 277		△ 216
営業活動に関するキャッシュ・フロー		83		△ 125		208
営業キャッシュ・フロー・マージン率		2.5%		△4.0%		6.5%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 125		△ 163		38
フリー・キャッシュ・フロー		△ 42		△ 288		246
財務活動に関するキャッシュ・フロー		77		209		△ 132

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

22

続いて、P.22は連結キャッシュフローです。

当四半期の営業キャッシュフローは83億円のポジティブとなりました。

FFOは 450億と前年比51億の減少となった一方、売掛債権の回収促進で棚卸資産増加を吸収したことにより、運転資本を127億縮減しました。

投資キャッシュフローにおいては、固定資産投資の継続にて、前年比38億低減ながら 125億円を支出したことで、フリーキャッシュフローは42億円のネガティブとなりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回4月に公表した業績見通しを据え置き、売上収益は前年比3%の減収、調整後営業利益は2%の減益、親会社株主に帰属する当期利益は5%増益を見込む。

(単位:億円)

	24年度		23年度	前年比	
	予想	実績	実績	金額	増減率
継続事業					
売上収益	13,700	14,059	14,059	△ 359	△ 3%
	(12.0%)	(12.0%)	(12.0%)	(0.1%)	
調整後営業利益	1,650	1,680	1,680	△ 30	△ 2%
	(11.8%)	(11.6%)	(11.6%)	(0.2%)	
営業利益	1,610	1,627	1,627	△ 17	△ 1%
	(11.0%)	(11.4%)	(11.4%)	(△0.4%)	
税引前当期利益	1,510	1,605	1,605	△ 95	△ 6%
継続事業からの当期利益	1,064	1,163	1,163	△ 98	△ 8%
非継続事業からの当期利益	7	△ 118	△ 118	125	-
	(7.2%)	(6.6%)	(6.6%)	(0.5%)	
親会社株主に帰属する当期利益	980	933	933	47	5%
EBIT	1,654	1,675	1,675	△ 21	
通貨	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想	23年度 実績	前年比
アメリカドル	155.9	141.0	143.9	144.8	△ 0.9
ユーロ	167.9	152.0	155.6	157.0	△ 1.4
中国元	21.5	20.1	20.4	20.1	0.3
オーストラリアドル	102.7	95.0	96.9	95.0	1.9
1株当たり配当金 *1		175円		150円	25円

為替感応度は
参考資料1を
ご参照ください

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%~40%を目安に安定的かつ継続的に実施することを基本として株主利益の最大化を図ります。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

23

続いて、今回の24年度業績予想をご説明します。

P.23『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

先程に執行役常務 CMOの松井が説明した今年度の需要環境、並びに当四半期3か月の実績を踏まえ、現時点の今年度業績予想を、前回4月時予想同額に据え置きます。

具体的には本スライドの通り、売上収益13,700億円、調整後営業利益1,650億円、親会社株主に帰属する当期利益980億円といずれも据え置きます。調整後営業利益率も12.0%を据え置きます。

尚、第2四半期以降の予想為替レートについても 米ドル：141円、ユーロ：152円、中国元：20.1円、オーストラリアドル：95円といずれも前回同レートを据え置きました。

欧州での需要減に加えて、アジア、オセアニアでも需要減少を見込んだ他、為替円高レート設定の前提下、米州での独自展開、並びにマイニング、部品サービスを含むバリューチェーン事業の業容拡大、並びに営業外収支の改善により、ボトムの親会社株主帰属当期利益において、過去最高益を見込みます。

尚、年間配当予想1株当たり175円も変更ありません。

P.28に 参考資料1として、第2四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回4月公表値に対し、欧州やアジアは下方修正するも、アフリカ、オセアニアは増額修正し、合計額は据え置く。

(単位：億円)

	24年度 予想		23年度 実績		前年比		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
日本	2,271	17%	2,269	16%	2	0%	
アジア	1,154	8%	1,270	9%	△116	△9%	
インド	863	6%	850	6%	13	2%	
オセアニア	2,603	19%	2,511	18%	92	4%	
欧州	1,402	10%	1,829	13%	△427	△23%	
米州	北米	3,515	26%	3,344	24%	171	5%
	中南米	374	3%	409	3%	△34	△8%
	3,889	28%	3,752	27%	137	4%	
内:独自展開	(2,528)	(18%)	(2,175)	(15%)	(353)	(16%)	
ロシアCIS	200	1%	234	2%	△35	△15%	
中東	334	2%	347	2%	△14	△4%	
アフリカ	682	5%	704	5%	△21	△3%	
中国	302	2%	292	2%	10	3%	
合計	13,700	100%	14,059	100%	△359	△3%	
海外売上収益比率	83%		84%				

* 23年度の実績及び24年度予想について継続事業のみの値としています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

24

続いて、P.24は『地域別売上収益の予想』です。

当年度 売上収益については、前年比359億円、3%減収の13,700億円 と、4月時見通しを据え置きます。

本見通しには、前提為替レートにより、32億円の減収影響を含んでいます。

欧州、アジアにて市況減速により、更に減収を見込む一方、マイニング事業堅調のアフリカ、オセアニアで 増収修正を織り込みます。

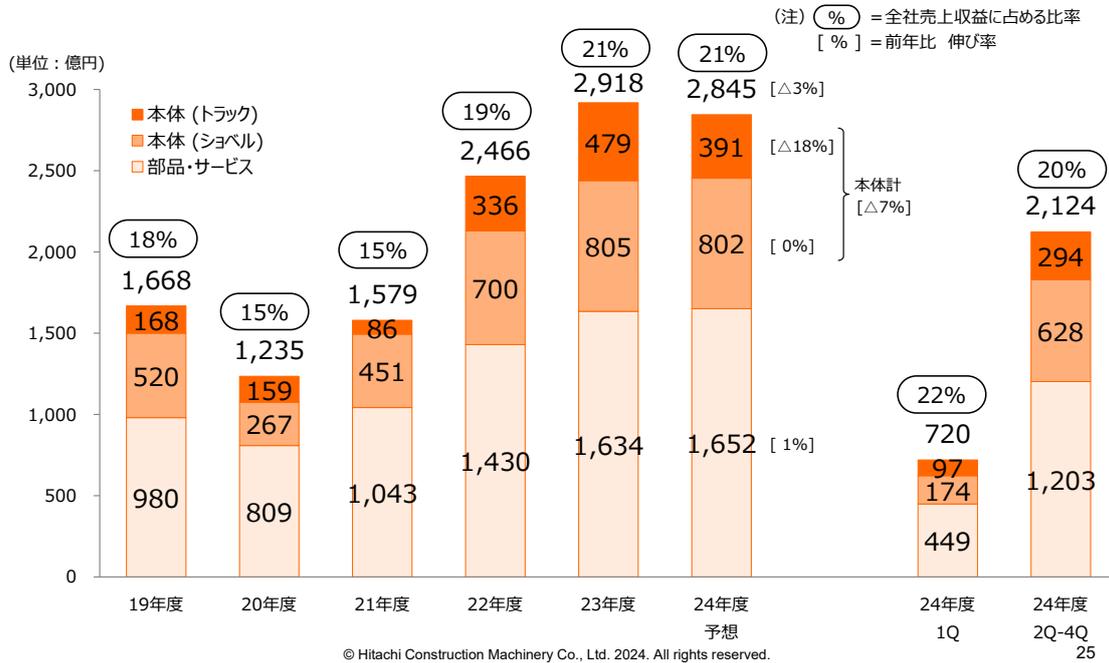
尚、海外売上高比率は、前年比1ポイント減の、83%を見込みます。

マイニング売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

4月公表値に対し、本体は米州、オセアニアで、部品・サービスはアジアで減少を織込む。



次に、P.25は マイニング売上収益予想です。

本年度のマイニング売上は、前年比3%減収の2,845億円を見込みます。

4月時見通しより 58億の減収修正を織り込みます。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比7%の減収を見込む一方、部品サービスでは1%増収の予想です。

売上構成比は、前年同様の21%を見込みます。

尚、P.29に参考資料2.として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

アジア・大洋州、欧阿中東での減収に加え、米州においても若干の減収を見込む一方、中国での増収を見込みます。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

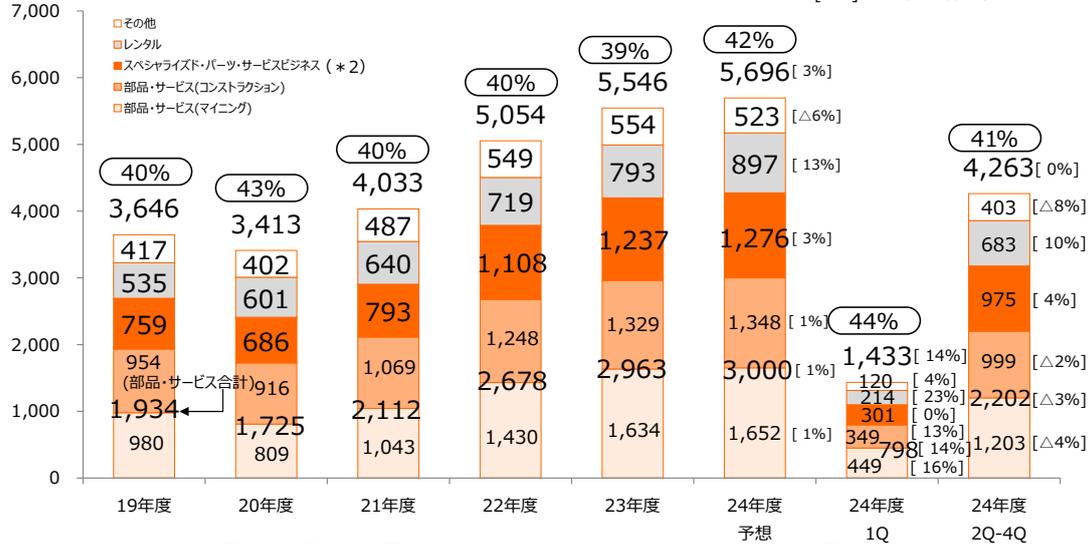
HITACHI

Reliable Solutions

4月公表値に対し、中古車及びレンタルで減少を織込む。

(単位：億円)

(注) (%) = 全社売上収益に占める比率
[%] = 前年比 伸び率



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計
*2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供
19年度実績より継続事業のみの値として、遡及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

26

続いて、P.26は『バリューチェーン売上収益推移（予想）』です。

本年度のバリューチェーン売上収益は、前年比3%増収の5,696億円を見込みます。

4月時見通しより、中古車、レンタル主体に75億の減収修正を織り込みますが、引き続き過去最高収益の更新を目指します。

個別では、部品サービスはコンストラクション、マイニング向け合計で前年比1%増収の3,000億円、レンタルにおいても13%増の897億を夫々見込みます。

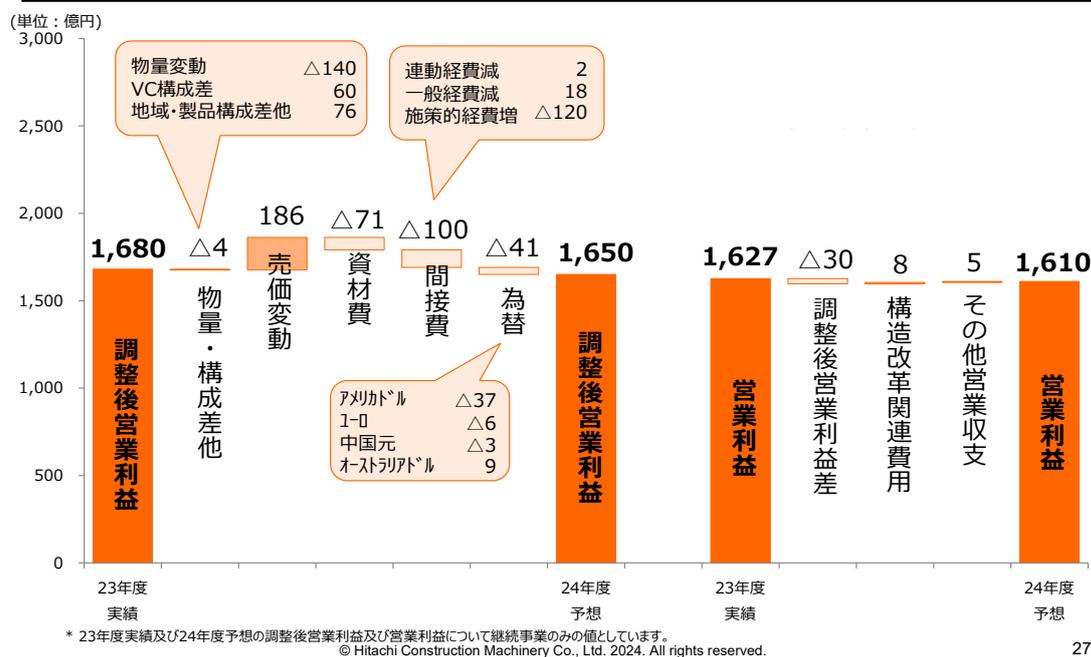
売上構成比は、前年比 3%増の42%を見込みます。

連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

バリューチェーンの伸長や売価改善により、物量減、資材費・間接費の増加を吸収し、円高為替レート設定の影響を除けば11億円の増益。



ご説明の最後となります、P.27『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

24年度調整後営業利益が前年比で30億の減益を見込む1,650億円となる要因をご説明します。

まず、物量・構成差として4億の減益を織込みます。

内訳として、物量変動で140億の減益、一方でバリューチェーン構成差では60億、加えて地域・製品構成差等で76億と増益を織込みます。

また、売価変動 186億の改善により、資材費71億増、及び間接費100億増の吸収を織込みます。

円高為替レート設定 影響により減益効果41億を見込むことで、調整後営業利益は前年比30億円の減益となりますが、為替影響を除けば、11億円の増益と分析します。

ページ右側 営業利益も、調整後営業利益の減益により、前年比で17億の減益となる1,610億円を予想します。

尚、28ページ以降に参考資料を3枚付けておりますのでご参照下さい。

以上、ご説明を終わります。有難うございました。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable Solutions

前回4月公表時の為替レートから変更なし。

為替レート及び為替感応度

(単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(2Q-4Q)		
	24年度			23年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	155.9	141.0	143.9	144.8	1円円安になった場合	25	15
ユーロ	167.9	152.0	155.6	157.0	1円円安になった場合	6	3
中国元	21.5	20.1	20.4	20.1	0.1円円安になった場合	1	0
オーストラリアドル	102.7	95.0	96.9	95.0	1円円安になった場合	20	3

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable Solutions

(単位：億円)

		24年度予想			23年度実績			差額		
		1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度
米州	ショベル	84	299	383	79	283	362	5	16	20
	トラック	39	42	81	24	85	109	15	△ 43	△ 28
	計	123	341	464	103	368	471	19	△ 27	△ 8
欧阿中東	ショベル	64	228	292	73	270	343	△ 9	△ 42	△ 51
	トラック	111	238	349	51	305	356	60	△ 67	△ 7
	計	175	466	642	125	575	700	51	△ 109	△ 58
アジア・大洋州	ショベル	304	885	1,189	259	942	1,201	45	△ 56	△ 11
	トラック	98	367	465	134	374	508	△ 36	△ 7	△ 44
	計	401	1,253	1,654	393	1,316	1,709	9	△ 63	△ 55
中国	ショベル	17	50	67	3	22	25	14	27	42
	トラック	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	計	18	50	68	3	22	25	15	28	43
日本	ショベル	3	14	18	3	6	9	△ 0	8	8
	トラック	0	0	0	0	4	4	△ 0	△ 4	△ 4
	計	3	14	18	3	10	13	△ 0	5	4
合計	ショベル	472	1,476	1,948	417	1,523	1,940	55	△ 46	8
	トラック	248	648	896	209	768	978	39	△ 121	△ 82
	計	720	2,124	2,845	627	2,291	2,918	94	△ 167	△ 73

参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable Solutions

スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスの調整後営業利益は、PPA（資産再評価）償却費として24年度第1四半期実績には3億円、24年度予想にも12億円をそれぞれ含む。

(単位：億円)

24年度 1Q	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス		
売上収益	2,981	318	△ 17	3,282
調整後営業利益	9.8% 291	10.8% 34	-	9.9% 325

(単位：億円)

24年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス		
売上収益	12,424	1,293	△ 17	13,700
調整後営業利益	11.9% 1,478	13.3% 172	-	12.0% 1,650

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

日立建機グループでは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、**10項目の重点目標を設定しています。**
当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

END

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」「ZCORE」は、日立建機株式会社の登録商標です。

2024年7月26日

 日立建機株式会社